

# 「静岡県障害のある方の実態調査」の結果（概要）

## ～70歳以上の介助者の割合が増加 介助者の高齢化傾向が一層進む～

健康福祉部障害者支援局障害者政策課

### （要旨）

- 県では、障害のある方の生活の実情と施策に対する意向等を把握し、第5次静岡県障害者計画（令和4年度～7年度）作成の基礎資料とするため、「静岡県障害のある方の実態調査」をとりまとめた。
- これによると、防犯対策の推進やバリアフリー化等により、「自分の住んでいる街が、障害のある人にとって安心して暮らせるところとだと思える方の割合」が前回調査と比べて約4ポイント増加している一方で、「差別や虐待を受けたことのある方の割合」は、2割弱で横ばいになっている。
- また、「70歳以上の介助者の割合」が前回調査と比べて約4ポイント増加し、介助者の高齢化傾向が一層進んでいることに伴い、「今後心配なことは、親亡き後の生活についての割合」が一番多くなっている。
- 調査の結果は、現在作成中の「第5次静岡県障害者計画」に反映していく。

### （調査の概要）

#### 1 調査目的

本調査は、障害のある方の生活の実情と施策に対する意向等を把握し、第5次静岡県障害者計画作成の基礎資料とするために実施した。

#### 2 調査内容

障害のある方の生活の実情と施策に対する意向等の8分野、38項目

【8分野】①あなたについて ②住まい・暮らし ③障害福祉サービス等の利用状況  
④仕事や家計 ⑤生活の環境や安全・安心 ⑥社会参加  
⑦悩み事に対する相談 ⑧その他（生活満足度、行政への希望）

#### 3 調査方法

##### （1）調査対象

- 身体障害のある方、知的障害のある方への調査

県内の身体障害者手帳所持者及び療育手帳所持者から無作為に抽出し、郵便にて調査票を配布・回収

- 精神障害のある方への調査

県内の精神科医療機関の協力を得て、各医療機関を通じて入通院者に配布し、郵便にて回収

（2）配布数 10,000部（身体障害 4,000人、知的障害 3,000人、精神障害 3,000人）

（3）調査期間 令和2年9月～令和2年11月（約3か月間）

#### 4 回収結果

	令和2年度調査	前回調査（H28）
発送数	10,000票	10,000票
回収数（回収率）	4,615票（46.2%）	4,389票（43.9%）

自分の住んでいる街が、障害のある人にとって安心して暮らせるところだと思う障害のある方の割合

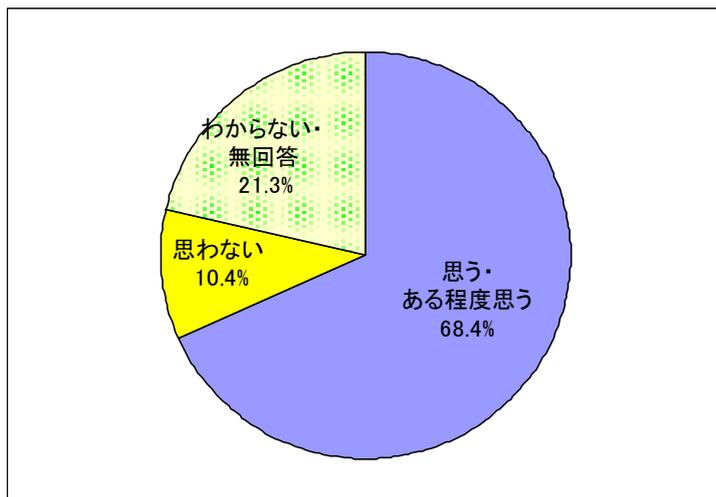
H28 調査  
64.7%



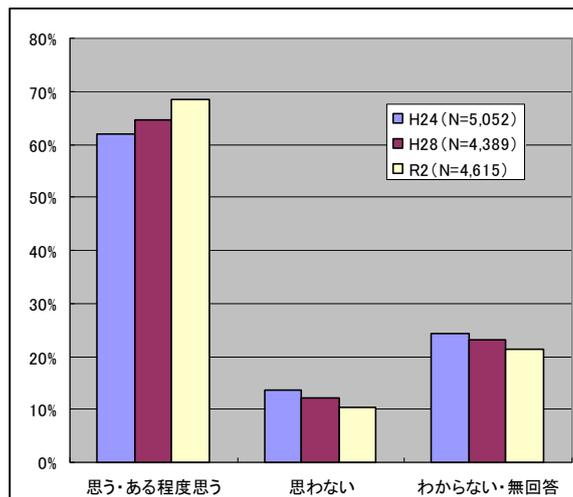
R2 調査  
68.4%

問 22 自分の住んでいる街が、障害のある人にとって安心して暮らせるところだと思いますか。

【今回調査結果】



【過去の調査との比較】



	安心して暮らせる ところだと思う	ある程度安心して 暮らせるところだと思う	安心して暮らせる ところだと思わない	わからない	無回答
H24 前々回調査	19.6%	42.4%	13.7%	16.5%	7.7%
H28 前回調査	19.5%	45.2%	12.2%	17.5%	5.6%
R2 今回調査	21.4%	47.0%	10.4%	17.1%	4.2%
		68.4%	10.4%		21.3%

「安心して暮らせるところだと思う」及び「ある程度安心して暮らせるところだと思う」を合わせた割合は 68.4%と、前回調査結果から 3.7 ポイント増加しています。

今後も、福祉サービスの充実はもとより、障害に対する県民の理解を深める「心のバリアフリー化」や、交通機関や施設などの「街のバリアフリー化」を進めていく必要があります。

差別や虐待を受けたことのある障害のある方の割合

H28 調査  
17.4%

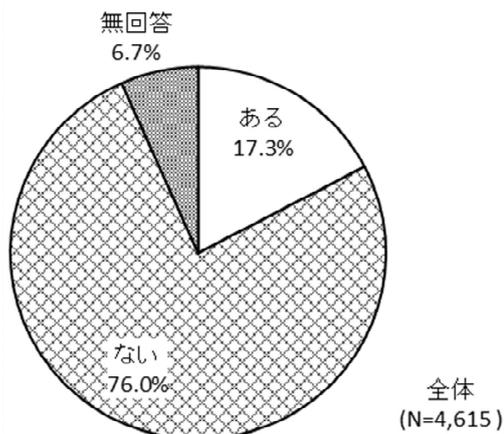


R2 調査  
17.3%

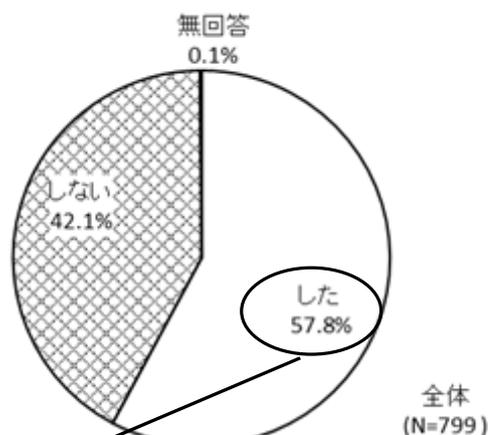
問 23 生活をしている中で、差別や虐待を受けたことはありますか。

※「虐待」とは身体的な虐待だけでなく、金銭的な虐待、心理的な虐待、性的な虐待を含みます。

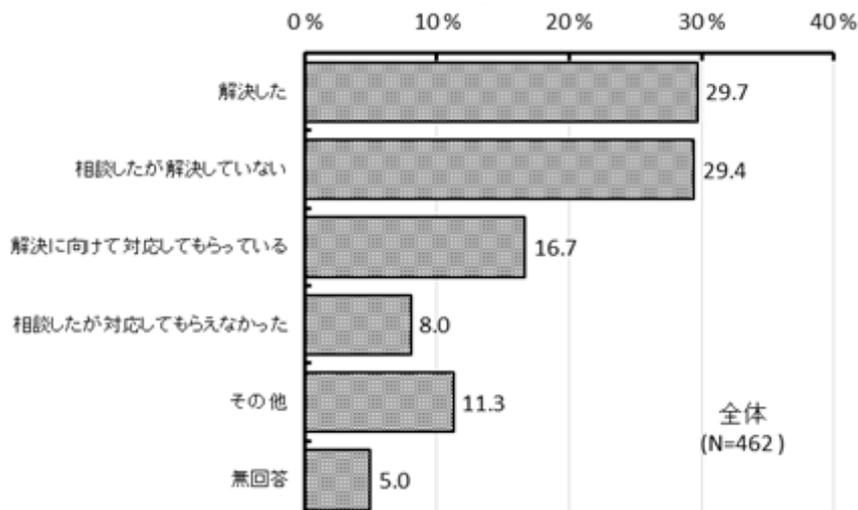
【差別・虐待経験の有無】



【相談経験の有無】



問 23-4 (上記において相談した方について、) その相談は解決しましたか。(新規調査)



生活をしている中で、差別や虐待を受けたことが「ある」方の割合は17.3%でした。

また、差別や虐待を受けたことがある方のうち、57.8%が差別や虐待を受けたことを誰かに相談していますが、「相談したが解決していない」29.4%、「相談したが対応してもらえなかった」8.0%と、問題が解決していないのは3割以上となっています。

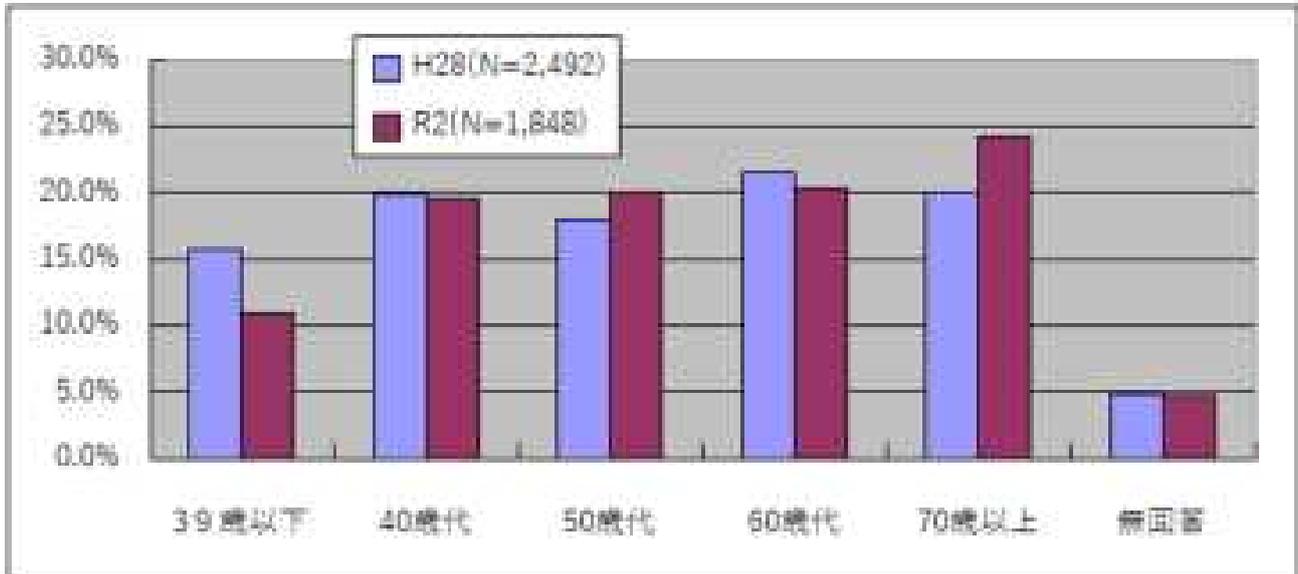
70歳以上の介助者の割合

H28 調査  
20.1%



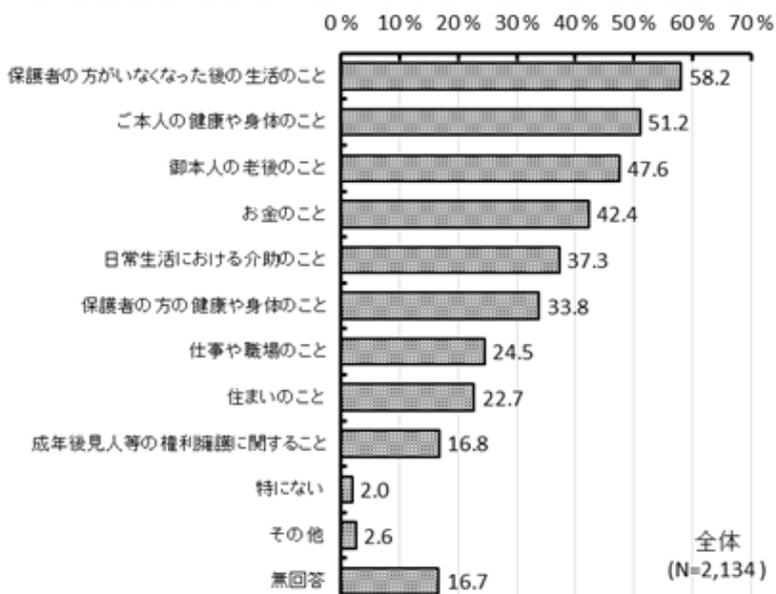
R2 調査  
24.3%

問 8-2 あなたを主に介助してくれる方の年齢層を教えてください。



	39歳以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
H28 前回調査	15.7%	19.9%	17.9%	21.6%	20.1%	4.9%
R2 今回調査	10.9%	19.6%	20.0%	20.4%	24.3%	4.8%

問 14 御本人が生活していく上で今後心配になることは何ですか。



70歳以上の介助者の割合は24.3%と前回調査より3.2ポイント増加し、介助者の高齢化が進んでいます。また、新たに回答項目とした、「保護者の方がいなくなった後の生活のこと」が58.2%と最も回答数が多く、県内においても8050問題で心配されている方が多くなっています。

生活に満足している障害のある方の割合

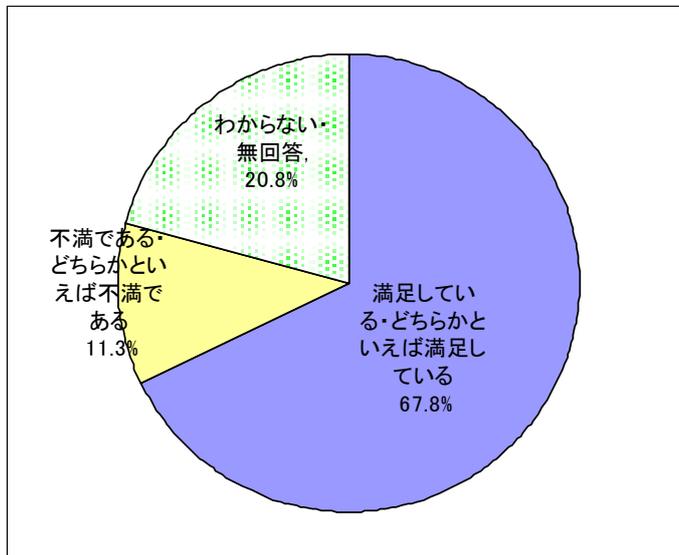
H28 調査  
69.9%



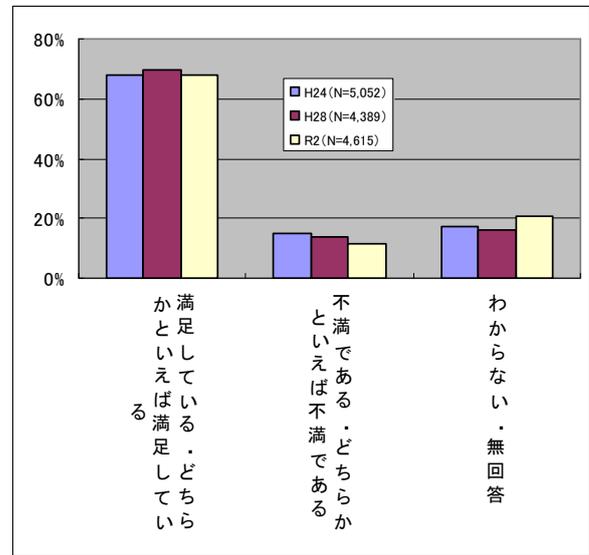
R2 調査  
67.8%

問 37 あなたは、現在の生活に満足していますか。

【今回調査結果】



【過去の調査との比較】



問 37-2 あなたは、現在の生活に不満がある理由を具体的に教えてください。

項目	H28 調査 A	R2 調査 B	増減 B-A
家計・収入・金銭に関すること	20.2%	14.7%	△5.5%
就労に関すること	9.6%	8.3%	△1.3%
家族や人間関係に関すること	8.8%	10.6%	1.8%
福祉制度・サービスに関すること	6.4%	4.3%	△5.1%
行動に制約があること・やりたいことができないこと	6.2%	16.5%	10.3%
自分の体調・障害・病気等に関すること	5.6%	11.3%	5.7%

「満足している」及び「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は 67.8%と、前回 (69.9%)、前々回 (67.9%) 調査結果と比べて、大きな変化はありませんでした。

不満がある理由については、前回調査では「家計・収入・金銭に関すること」が 20.2%と一番多かったが、今回調査では、新型コロナウイルス感染症による外出自粛や移動の制限、マスク着用などの影響により、「行動に制約があること・やりたいことができないこと」の割合が 16.5%で一番多く (前回 6.2%) なっています。

日常生活において自立し、社会参加をしていると感じている障害のある方の割合

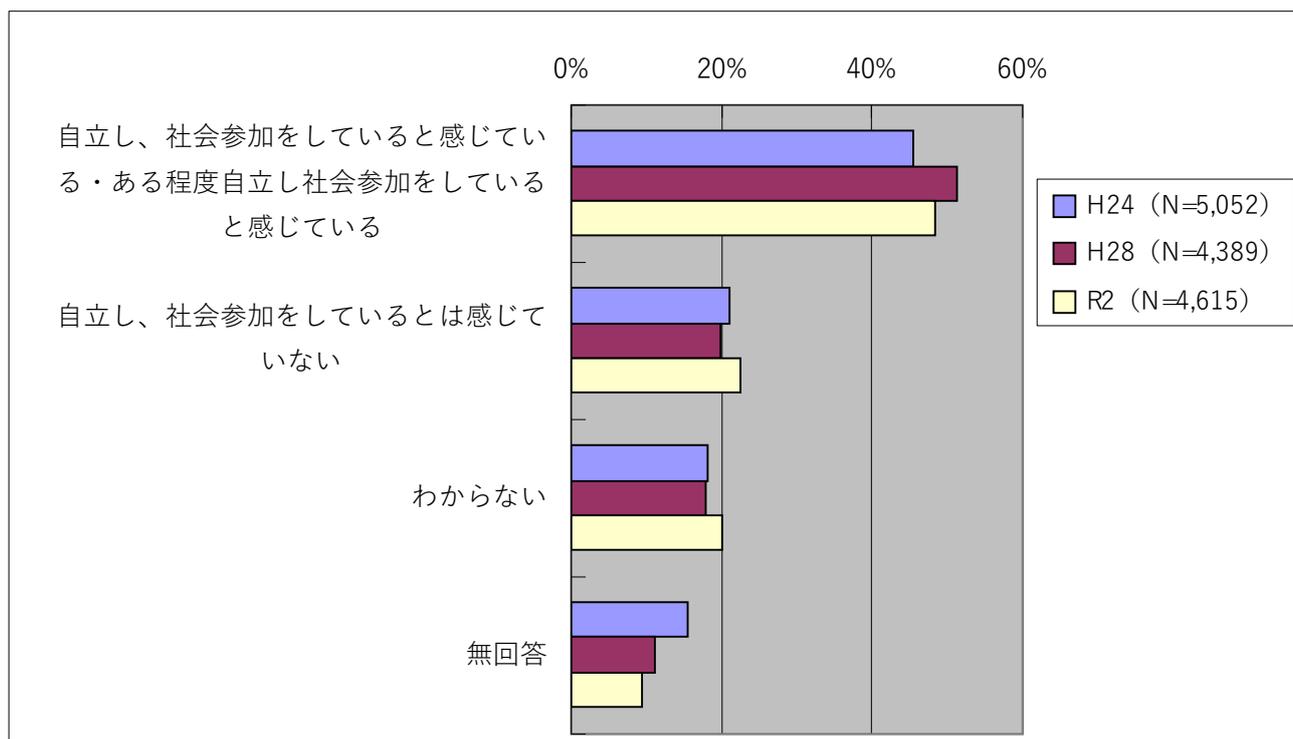
H28 調査  
51.3%



R2 調査  
48.3%

問 27 あなたは、日常生活において自立し、社会参加をしていますと感じていますか。

※ここでいう、「自立」とは、必要とする支援を受けながらも、自分の意思をもって日常生活を送ることを含みます。



	自立し、社会参加をしていると感じている	ある程度自立し、社会参加をしていると感じている	自立し、社会参加をしているとは感じていない	わからない	無回答
H24 前々回調査	19.1%	26.3%	21.1%	18.0%	15.5%
		45.4%	21.1%	18.0%	15.5%
H28 前回調査	22.3%	29.0%	19.7%	17.8%	11.1%
		51.3%	19.7%	17.8%	11.1%
R2 今回調査	20.0%	28.3%	22.4%	20.0%	9.3%
		48.3%	22.4%	20.0%	9.3%

「自立し、社会参加をしていると感じている」及び「ある程度自立し、社会参加をしていると感じている」を合わせた割合は 48.3%と、前回調査結果から 3.0 ポイント減少しています。新型コロナウイルス感染症による外出自粛や、イベント・研修会等の中止などにより、社会参加の機会が減少したことが要因と考えられます。